



## 室井佑月さん

むろい ゆづき/作家。テレビやラジオのコメントーターとしても活躍中。著書に『この国は変わらないの?』（新日本出版）、『息子ってヤツは』（毎日新聞出版）、『ママの神様』（講談社）、『ブチスト』（中央公論社）、『血あかい花』（集英社）ほか多数。



### ●ずっとやりたかったイベント

今年の6月から月に1回、「女は死なない〜大した話じゃないけれど」というイベントを開催しています。小沢遼子さんと戦慄かなのちゃんと私の3人で、時事ネタから社会問題まで、お客さんとも本音で語り合うトークショーです。イベントの目的は、チケット代などのイベントで出た利益、集まった募金を女性や子どもを助けている団体に寄付することです。

ずっとなんかやりたいなと考えていてようやくできるようになりました。イベントをはじめようと思ったのは、だいぶ前からなんですが、貧困問題について書かれている新聞記事が目に入るようになってきて貧困についての書籍を読んだりしたことがきっかけです。知って知らないふりするのやだなあと思っていて。私の仕事は、見てくれる人からの人気によって収入が増減する、浮き沈みのはげしい仕事です。なので、ずいぶん昔からこの年は稼ぎすぎたな、と思ったときには国際的な支援団体に寄付をしてたんです。でも、なにかがうんじやないかと思ってきました。いや、いいから

## 第1回

# でける「J」からはじめる



って言うてるのにホテルで賞状を渡すとか。そこにおじさんたちがハイヤーに乗ってやってくるんですよ。この人たちに私のお金ってんじゃないかって思うところ。だからもつと近いところできなにかやりたい、と思っていました。

### ●テレビでは伝えられない貧困の問題

私が住んでいるのは都心のタワーマンションなんですけど、道を隔てた向かい側には古い建物がたくさんあるんです。道をはさんで一方には高級官僚や大手の企業に勤めている人たちが住んでいて、もう一方には生活保護で借り上げているアパートがたくさんある、そういう地域です。

その地域で息子は公立の小学校に通ってました。夏にプールがはじまると小

学校でシラミが大発生するんですね。なんで今の時代にシラミ? と思っていたんですが、息子の友だちが家に遊びに来ると、全然洗っていない大人用の下着をつけていたり、髪を洗っていないで板みたいにカチカチになっちゃっている子、ネグレクトを受けているような子をみてきました。そのころから、テレビでは流れていないような貧困の問題があるっていうのはなんとなくわかっていたかもしれません。

そんな子どもたちの親との関係からは、貧困家庭の困難をすべて個人的には引き受けられない、そんなむずかしさも感じていました。お金を無心されても個人だと支えることに限界があるし、境界線がはっきりしないから、個人じゃなくもう少し大きな組織としてなにか働きか

けていけないかと考えていたんです。そこで、こんなイベントのかたちがちょっといいかなと思いはじめました。子どもに焦点をあてながら貧困問題を考えるんだしたら、子どもを産む女の人なことでもあると思います。子どもの貧困に向き合うと、ひとり親でお母さんが朝も夜も働いていたり、夜の仕事をしていたり精神的にしんどくなっているとか、親自身の生活のきびしさがみえてきますよね。生活のために働きづめで休む時間もないと、子どもにはやさしくなれないと思います。



イベント「女は死なない〜大した話じゃないけれど」(左) 戦慄かなのさん、(中央) 小沢遼子さん